

# 日本レジャー・レクリエーション学会

## 第35回学会大会の開催にあたって

日本レジャー・レクリエーション学会  
会長 油井正昭

今年は日本で国際的な大きなイベントが開催された。「自然の叡智」をテーマに開催された2005年日本国際博覧会「愛・地球博」である。3月25日から9月25日までの開催期間中に2,200万人を超える入場者があり、中には毎日のように入場した人もいたというから魅力の大きなイベントであった。この国際博覧会の会場を決める頃から、会場整備に係る環境影響評価と開期中の開催地と周辺地域の環境保全について約10年近く関わった。国際博覧会の開催期間は、半年間であったから準備期間がはるかに長かった。

どんなイベントでも、会期に対して準備期間の方が長いのが普通だが、学会大会の開催も同様である。平成17年度第35回学会大会を、国際基督教大学で開催させて頂くことが決まってから、1年余りの準備を経て大会当日を迎えることができた。

国際基督教大学には、武蔵野の雰囲気が残る環境の良いキャンパスで、学会開催の便宜を与えていただき、心から御礼を申し上げます。

この1年余りの間、国際基督教大学に在職されている高橋伸理事を実行委員長として、常任理事全員が実質的な実行委員会を組織して大会の準備を進めてきた。実行委員会には、総務部会、研究部会、発表部会、広報部会、渉外部会を設け、それぞれの部会で検討した内容は、実行委員会で検討を深めて内容の充実を図り、さらに常任理事会でも討議を重ねるなど、学会の最も重要な行事として大会準備に努力した。

今年度は実行委員の連絡をE-mailで行うことになり、高橋伸理事の手でメーリングリストが作られ、委員間の交信と準備の進捗状況が他の方々にも確認できる方法が取り入れられ、大会テーマの設定、大会のプログラムづくり、地域研究の計画などで委員相互の意見交換がmail交信によって行われた。この方法は大会準備に対する新しい試みだった。また、この第35回学会大会から新たにポスター発表が加えられることになり、研究発表形式の多様化で学会大会の充実が期待される。

こうした長い準備経過を経て開催される大会であるから、大会期間の3日間を是非大勢の学会員にご参加いただき、稔りのある大会になることを願っている。